

令和2年度病害虫発生予察指導情報

対象病害虫：イネ・トビイロウンカ（No. 4）

令和2年9月25日
鳥取県病害虫防除所

1 情報の内容

9月25日現在、平坦部～山間部の複数地域でトビイロウンカによる坪枯れが発生しています。今後、中生～晩生品種栽培ほ場では坪枯れ発生ほ場の増加が懸念されますので、適切な防除対策を行って下さい。

2 現在の状況と今後の見込み

- (1) 9月第2半旬にトビイロウンカによる坪枯れが初確認された。その後、9月20日頃より発生ほ場が急増し、9月25日現在、平坦部～山間部の複数地域で坪枯れが確認されている。
- (2) 9月25日現在、①トビイロウンカに農薬登録されていない又は飛来したトビイロウンカに対して感受性が低下している育苗箱施用剤を使用しているほ場、②出穂前後の防除を行っていないほ場を中心に坪枯れが発生している。
- (3) 今後、中生～晩生品種栽培ほ場では坪枯れ発生ほ場がさらに増加すると見込まれる。

3 防除上注意すべき事項

- (1) 中生品種～晩生品種で収穫まで2週間以上あるほ場は下記を参考にして防除を行う。

ア ほ場の状況をよく観察し、坪枯れを確認した場合、又は株の異常黄化等、坪枯れの前兆を確認した場合は粉剤、水和剤などで直ちに防除を行う。

イ 収穫時期が近いので、防除にあたっては農薬の収穫前日数及び総使用回数に注意するとともに、農薬の使用基準を遵守する。また、散布の際、本種の生息場所である株元に農薬が十分かかるようにする。また、周辺ほ場に農薬が飛散しないよう十分に注意する。

ウ 出穂期以降、本田防除を行っていないほ場では、坪枯れの発生が懸念されるので発生状況には特に注意する。なお、ウンカ類に対して高い効果を示す育苗箱施用剤を使用したほ場においても、現段階では育苗箱施用剤の効果は切れているので、本田防除を行っていない場合は発生状況に十分注意する。

エ 必要以上に早い落水は、坪枯れの発生を助長するので、適期落水に努める。

- (2) 収穫まで2週間未満のほ場で坪枯れ、又は坪枯れの前兆を発見した場合は、収穫適期の範囲内で速やかに収穫する。